

## 連載

### 自動車リサイクル業界を 担うホープ(25)

名前:常永 大地(つねなが だいち) (25歳)

所属:有限会社大村自動車商会  
(鳥取県米子市)

担当:商品管理・鑑定

特技:楽器

MBTI :自己主張型(揺るがない理想を持つ、  
冷静でポジティブな実行者)

- 仕事で誰にも負けない部分  
思い切りの良さ
- この業界の魅力を一言で  
地域や全国の工場などへ貢献が実感  
しやすい。また、自動車の知識がより付  
きやすいのも魅力だと思います。
- 将来の業界への期待  
物資不足が進んでいく中で、リサイク  
ルパーツの需要がさらに増え、より業  
界が活発になる事を期待しています。

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。



## INDEX

- 【連載】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 —— P.1
- 2026年度 JAERA会員が押さえておきたい注目テーマ —— P.2
- 第23回景況調査結果 —— P.3
- JAERA活動報告 —— P.4
- 3月新車販売台数・使用済自動車発生台数・輸出返還台数 —— P.5
- 鉄スクラップ最新情報 —— P.6
- 活動予定・お知らせ / 編集後記 —— P.7

## 巻頭言

広報部会

木村 香奈子

さわやかな季節となりましたが、ゴールデンウィークは皆さまどのようにお過ごしでしょうか。

先日、娘の入学式で来賓の歴史家の方が印象的なお話をされました。AIが進展しても人の仕事は失われない。明治期に蒸気機関車が登場した際も同様の不安があったが、結果として新たな地域や産業が生まれたという内容です。AIにより作業効率が高まれば、週休三日、四日といった働き方も現実味を帯び、余暇は趣味や健康へと向かうでしょう。その先には新たな需要と価値が生まれ、産業の姿も変わっていきます。

変化を受け入れ、自らの役割を問い続けることが、次の時代を切り拓く鍵になるのではないのでしょうか。

02

## 2026年度 JAERA会員が押さえておきたい注目テーマ

### 5つのテーマに注目

自動車解体業界を取り巻く環境は、制度見直しの議論、資源循環の高度化、業界連携の新たな動き、人材確保の課題、景況感の変化など、多方面で動きが続いています。2026年度も、会員の皆様にとっては、日々の実務に取り組みながら業界全体の流れを見据えていくことがより重要になる一年になりそうです。今回広報部会では、JAERAが現在取り組んでいる事項も交えながら、今年特に押さえておきたい5つのテーマを整理しました。

#### 1. 制度見直しの動向

前号でもお伝えした合同審議会など、自動車リサイクル制度の見直しをめぐる議論は、引き続き業界にとって大きな注目点です。**適正処理の推進**に加え、近年は**国内資源循環の強化**や**リサイクル部品の流通拡大**、解体業者の役割の明確化なども重要な論点となっています。JAERAは合同審議会等の場を通じて、現場の実態を踏まえた課題提起や提案を継続して行っており、その他、リサイクル部品の活用拡大などの方向性についても発信を続けています。制度改正が直ちに具体化する段階ではないとしても、その方向性を把握しておくことは今後の対応を考えるうえで欠かせません。



#### 2. 資源循環の高度化



近年は、使用済自動車に適正に処理するだけでなく、回収した資源をいかに有効活用し、国内で循環させていくかという視点がより重視されています。樹脂やガラス、金属類などの回収高度化に加え、JAERAでも**ワイヤーハーネスの共同出荷事業**の開始に向けた準備が進められており、こうした取組みは**資源循環の促進**に加え、**解体業者の収益性向上**にもつながることが期待されます。また、JAERAでは**資源回収インセンティブ制度**の理解促進と普及に向けて手引書を作成し、説明会や情報発信を通じた周知にも取り組んできました。

#### 3. 業界連携の新たな動き

制度対応や資源循環の取組みを進めるうえでは、個々の事業者の努力だけでなく、業界全体としての連携や発信力の強化も重要です。現場の課題や業界の考え方を社会や関係先へよりの確に伝えていくためにも、**業界として多くの声を集約**し、発信していくことが求められます。その意味でも、会員の裾野を広げ、業界としての代表性を高めていくことは今後の課題の一つです。

#### 4. 人材確保・定着と職場づくり



多くの会員にとって、**人材の確保と定着**は非常に身近で切実なテーマです。採用の難しさに加え、長く働いてもらうための職場づくりや、若手への教育、事業継承も大きな課題となっています。JAERAでは、**未来部会を中心に採用・定着に関する勉強会**等を実施しており、会員企業の課題意識の共有にも取り組んでいます。また、**育成就労制度**についても、将来的な人材確保の選択肢の一つとして注視し、必要な検討や情報収集を進めているところです。

#### 5. 景況感と経営環境の変化

使用済自動車の発生動向、仕入環境、中古車輸出、資源価格、人件費など、経営を取り巻く環境は引き続き変化しています。現場では、以前と同じ感覚では判断しにくい場面も増えているかもしれません。本号でも紹介している**景況調査**は業界全体の流れを知るうえで大切な材料ですが、あわせて、自社の地域性や取扱いの特徴、取引先の状況を踏まえて見ていくことも必要です。JAERAとしても、景況調査をはじめ、**会員の実態把握につながる情報の収集と発信**を継続しながら、**業界の現状を多面的に伝えていく**ことが求められています。



#### —最後に—

2026年度も、自動車解体業界を取り巻く状況はさまざまに変化していくことが予想されます。制度、資源循環、連携、人材、経営環境——いずれも互いに関わり合いながら、今後の業界を形づくっていくテーマです。今回は、広報部会として現時点で特に注目したいポイントを整理したのですが、今後のニュースレターでも、これらのテーマを軸にしながら、会員の皆様の実務に役立つ情報を引き続きお届けしてまいります。

03

第23回 景況調査報告 2026年1～3月期

集計：長崎大学 経済学部 教授 木村真実

前年同期比は改善傾向も、次期見通し業況判断は依然マイナス

【調査要領】

- ①調査期間：2026年3月18日（水）～3月31日（火）
  - ②対象企業：日本自動車リサイクル機構会員企業
  - ③調査の方法：FAX・Webの送受信による自計記入を求めた。
  - ④回答企業数：435社のうち119社（27.3%）から回答を得た（うち、有効回答数117）
  - ⑤平均従業員数：役員を含む正規従業員数 35.5人（前回29.3人）  
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 9.1人（前回6.1人）
- ※DI値（DI：Diffusion Index）「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの ※：本文中の「△」はマイナスを意味する。

今回の調査結果についての詳細や解説などは、以下の「報告書版」からご覧ください。

報告書版はこちら ▶

<https://www.elv.or.jp/media/20/20260423-keikyo23.pdf>

図では第1回景況調査（2020年7-9月期）から第23回景況調査（2026年1-3月期）までの、前年同期比のDI値の推移を示す。前回の第22回調査（2025年10-12月期）と比べると、業況判断は4.6ポイント、売上高は5.6ポイント、改善した。

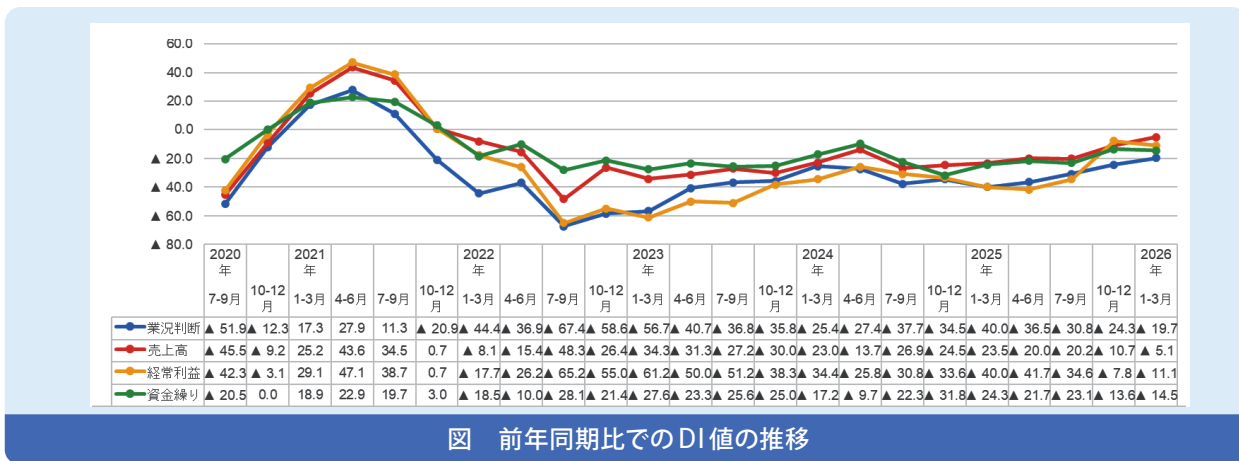


図 前年同期比でのDI値の推移

以下の表では、2026年1～3月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りの動向を、前期比、前年同期比、次期見通しで示す。

表 業況判断、売上高、経常利益、運転資金調達の動向												
	前期比(2025年10～12月と比べて)				前年同期比(2025年1～3月と比べて)				次期見通し(2025年4～6月と比べて)			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
業況判断	11.97%	59.83%	28.21%	-16.2 (-25.2)	15.4%	49.6%	35.0%	-19.7 (-24.3)	9.4%	50.4%	40.2%	-30.8 (-33.0)
売上高	24.79%	52.99%	22.22%	2.6 (-9.7)	24.8%	45.3%	29.9%	-5.1 (-10.7)	17.9%	46.2%	35.9%	-17.9 (20.4)
経常利益	18.80%	51.28%	29.91%	-11.1 (-16.5)	21.4%	46.2%	32.5%	-11.1 (-7.8)	14.5%	46.2%	39.3%	-24.8 (-24.3)
資金繰り	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値
	6.8%	73.5%	19.7%	-12.8 (-14.6)	8.5%	68.4%	23.1%	-14.5 (-13.6)	8.5%	69.2%	22.2%	-13.7 (-19.4)

注：DI値欄のカッコ内の値は前回調査時のDI値です。

■事務局より■

次回、第24回(2026年4～6月期)の景況調査は、6月17日(水)～6月30日(火)で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

## 04 ▶ JAERA 活動報告

### JAERA 長野県支部設立総会を開催—4社で新たな一歩—

2026年4月22日（水）、松本市勤労者福祉センターにおいて、「日本自動車リサイクル機構（JAERA）長野県支部設立趣旨説明会・設立総会」が開催された。中部北陸ブロックの金森ブロック長が中心となって準備を進め、長野県内の自動車解体業者に加え、自治体や関係団体の参加も得て、長野県支部設立に向けた大きな節目となる一日となった。

当日は、第1部として自動車再資源化協力機構による適正処理講習会が実施され、フロン類、エアバッグ類、リチウムイオン電池等の適正処理について理解を深めた。続く第2部では、JAERA長野県支部設立の趣旨説明が行われ、地域に根差した活動体制の必要性や、今後の展望について認識を共有した。

その後の設立総会では審議が行われ、JAERA長野県支部の設立が正式に承認された。長野県地域環境部、自動車再資源化協力機構、さらに報道関係者の立会いのもと、新たな地域組織が誕生した意義は大きい。



総会の様子



左：鈴木修一様 中：小宮山勇貴様 右：鴨下直哉様

長野県支部は、スタート会員4社による船出となり、さらに3社が加入を検討している。地域における適正処理の推進、業界の健全な発展、最新情報の共有、そして事業者同士の連携強化を担う拠点として、今後の役割は大きい。JAERAとしても、各地域との結びつきを一層強めながら、全国ネットワークのさらなる充実と発展を目指していく考えである。

### 関東ブロック会議 —制度見直しや共同出荷事業の進捗を共有—

4月15日（水）、Forum S+内幸町（東京都港区）で、JAERA関東ブロック会議が開催された。有原ブロック長を中心に、関東各支部の支部長が出席し、本部からは阿部専務、木内副代表、酒井相談役らが出席。業界を取り巻く現状を踏まえ、JAERAの活動や今後の見通しについて意見交換が行われた。

会議では、自動車リサイクル制度の評価・検討に関する主な論点と対応の方向性について本部から報告があり、制度見直しを巡る最新動向を共有した。このほか、ワイヤーハーネス共同出荷事業の進捗状況の共有や意見交換、各地域の近況報告も共有され、制度動向と現場課題の双方を見据えた会議となった。



会議の様子

### 中国・四国ブロック会議 —業界の先行きを見据え、率直な意見交わす—

4月22日（水）、サムライスクエア（岡山県岡山市）において、JAERA中国・四国ブロック会議が開催された。中村ブロック長のもと、各県支部長が出席し、制度見直しの動向や業界課題について意見交換を行われ、ワイヤーハーネス共同出荷事業の進捗、自動車リサイクル制度の評価、自動車リサイクル士制度の今後などについて報告があり、業界を取り巻く環境変化への対応について認識を共有した。また、2026年総会をもって中村ブロック長から栗田新ブロック長へ体制移行することも確認された。

各地の近況報告では、ホルムズ海峡を巡る情勢による輸出への影響や、原油高を背景とした資材の不足・高騰などの話題も挙がった。和やかな雰囲気の中でも活発な意見交換が行われ、今後を見据えた有意義な会議となった。



会議の様子

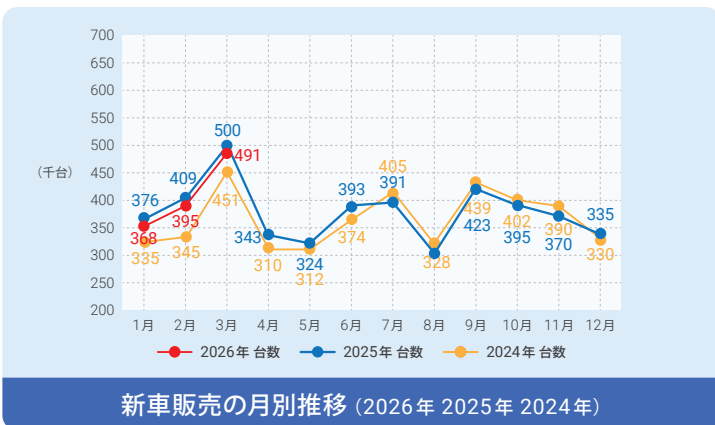
05

3月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

2026年3月の台数動向

— 新車・使用済は前年割れ、輸出の返還件数は大幅に増加

■2026年3月度 新車販売台数 490,640台 (前年同月比98.2%)

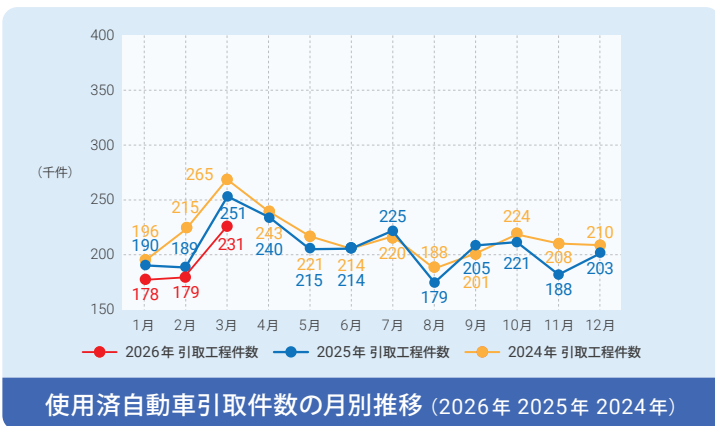


年累計	台数 (台)	前年比 (%)
2026年 (3月まで)	1,253,357	97.5
2025年	4,565,777	103.3
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況

2026年3月度 引取工程 230,759件 (前年同月比92.1%)



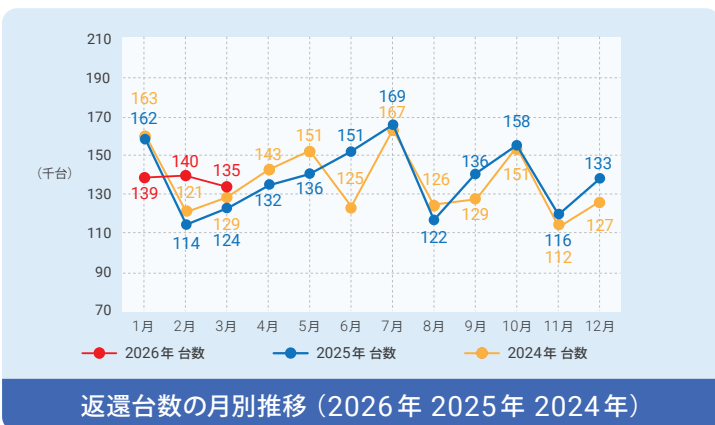
年累計	件数 (件)	前年比 (%)
2026年 (3月まで)	587,320	93.3
2025年	2,519,062	97.2
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■中古車輸出に係る返還台数※

2026年3月度 135千台 (前年同月比108.9%)

※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数



年累計	台数 (千台)	前年比 (%)
2026年 (3月まで)	414	103.5
2025年	1,656	100.7
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5

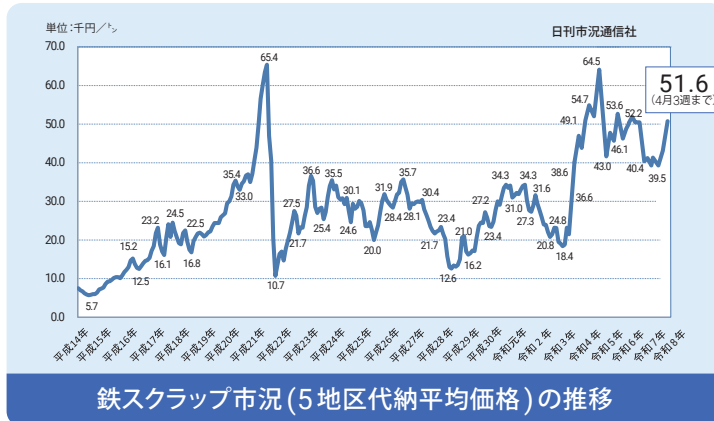
※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 06

## 鉄スクラップ最新情報

[ 提供：日刊市況通信社 ]

## 4月第4週（21日）の鉄スクラップ動向



4月21日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	52,500 ~ 54,000	続伸
	南関東	52,500 ~ 54,000	続伸
	浜値	52,500 ~ 53,500	続伸
名古屋		52,000 ~ 53,000	続伸
関西	大阪	53,000 ~ 53,500	続伸
	姫路	53,000 ~ 54,000	続伸

## 米コンポ続落、No.1ヘビー 368.33ドル 前週比9.34ドル安

4月20日付の米国No.1ヘビーのコンポジット価格は、前週比9.34ドル値下りの1Lトン当たり368.33ドルに続落した。前週は10.66ドル値下りしており、直近2週で合計20.00ドルの下落となった。地区別価格は以下の通り(価格、前週比)。◇ピッツバーグ(380.00ドル、8.00安↓)◇フィラデルフィア(350.00ドル、8.00安↓)◇シカゴ(375.00ドル、12.00安↓)。

なお4月20日付の米国ブッセリングのコンポジット価格は、前週比横ばいの1Lトン当たり449.67ドルだった。同品種は2月16日付の450.00ドル(同22.00ドル高)からほぼ実質的に横ばいで推移している。地区別価格は以下の通り(価格、前週比)。◇ピッツバーグ(445.00ドル、横ばい→)◇クリーブランド(455.00ドル、横ばい→)◇シカゴ(449.00ドル、横ばい→)。

## トルコ輸入市場に新規成約、価格は横ばい

トルコの輸入市場で先週末にかけ複数の米国玉の新規成約が決まった。HMS1&2(80:20)の成約で価格はCFR401.50ドルおよびCFR403ドルと、足元の相場水準でほぼ横ばい。トルコ産の建材価格は回復の兆しが出ており、需要家は6月入着分の手当に動き始めた。

## 東日本 需給バランス変化無く堅調様子見

東日本の鉄スクラップ市況は堅調様子見で推移している。関東では、市中スクラップと車両の一部は東京・13号地で続く関東鉄源のH2共同荷役(バングラデシュ向け2万ト)や周辺のシッパーに流れており需給バランスに目立った変化は見られない。関東地区のH2炉前実勢価格は52,500 ~ 53,000円中心、高値53,500 ~ 54,000円見当。H2浜値は52,500 ~ 53,500円中心、神奈川・川崎方面がやや割高の状況が続いている。

## 東海 市中に依然先高観、堅調推移続く

東海市場の鉄スクラップ市況は、市中に依然として先高観があるため、4月16日からの続伸後も堅調感を残した相場推移となっている。市中には先高観が根強く、問屋筋は現時点での手持ち在庫の出荷には消極的だ。これに対し電炉筋はゴールデンウイーク前までに在庫積み増しを図りたい意向があり、需給は引き締め感強い。需要家筋は必要量確保のため、引き合いを緩められない状況だ。H2炉前実勢価格は52,000 ~ 53,000円中心。

## 大阪 入荷確保に向けて堅調様子見の展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は堅調ムードにある。電炉は入荷促進の手を緩めにくい状況が続くものの、4月第4週は炉休入りも見られるほか、海外市場の上伸にも勢いがなくなりつつあるため、上昇展開にブレーキがかかり始めている。しかし上級品種を中心に湾岸への流出が残り、これが電炉入荷の安定感を欠く要因となり需給タイト感が解消されない。H2炉前実勢価格は、大阪が53,000 ~ 53,500円、姫路が53,000 ~ 54,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、4月21日午後時点のもの)

## 07 お知らせ

## 樹脂破砕機等の導入補助金について

環境省の補助事業として、資源回収インセンティブ制度に参画中または参画予定の事業者を対象に、樹脂破砕機等の導入補助金が2026年度も実施されています。対象設備は、樹脂破砕機のほか、再生樹脂の品質を高める目的で破砕機と一体的に導入する洗浄設備、脱水・乾燥設備、磁選機、架台等です。

なお、申請窓口は（公財）廃棄物・3R研究財団となります。資源回収インセンティブ制度への参画をご検討中の会員の皆様は、ぜひご活用をご検討ください。

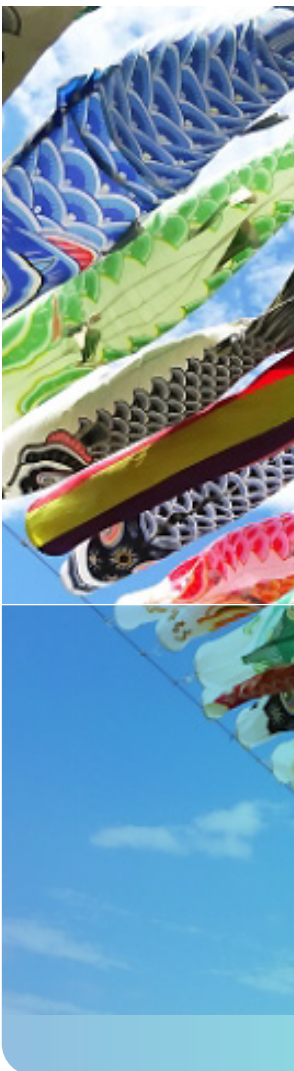


出展：環境省HP

■ 環境省 [https://www.env.go.jp/press/press\\_04197.html](https://www.env.go.jp/press/press_04197.html)

■ (公財) 廃棄物・3R研究財団HP  
[https://www.jwrf.or.jp/individual/prj\\_002186.html?20260420160011](https://www.jwrf.or.jp/individual/prj_002186.html?20260420160011)

## 編集後記



やっと、つらいスギ花粉症から解放される季節になってきました。スギは日本固有の針葉樹で、北海道の道南エリアから鹿児島県の屋久島まで、広い地域に生息しています。現在生えているスギの多くは、戦中から高度経済成長期にかけて植えられた人工林です。スギは樹齢30年くらいから花粉を飛ばす量が増え、60年前後の木が最も多く花粉を飛ばすといわれています。

スギは成長が早く加工もしやすいため、昔から幅広い用途に使われてきました。しかし、1960年代にスギ花粉症が初めて報告されて以来、花粉は嫌われ者になってしまいました。スギからすれば、「木材としては便利に使っているのに、花粉だけ嫌うなんて身勝手じゃない?」、「生き物として当たり前花粉を飛ばしているだけなのに……」と怒っているかもしれません。私たちに嫌われる花粉を飛ばすスギも少しかわいそうな木に思えてきます。

来年の花粉の時期は、スギに怒るのではなく、発生源であるスギの数が圧倒的に少ない沖縄に行くのもいいかもしれません。「避粉テレワーク」なんて、いいんじゃないでしょうか。

広報部会長 田村 幸男

## 6 月の活動予定 &amp; 取組み

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

8日(金) | J-FAR 実態調査事業 解体事業者へのヒアリング (対面)

14日(木) | J-FAR 実態調査事業 解体事業者へのヒアリング (対面)

22日(金) | 第2回広報部会 (WEB)

## その他 会議等

20日(水) | 育成就労制度に関する関係者会議 (対面)

21日(木) | 解体事業者へのヒアリング (対面)

25日(月) | 合同審議会に関する対応 (対面)

